専徳寺報

第486号
令和7年3月5日発行
浄土真宗本願寺派
専徳寺

〒740-0044 岩国市通津2764
☎0827-38-1124 FAX38-1000
https://sentokuji.net/
岩国 専徳寺 検索

春季讃仏会法要
（前々住職七回忌法要併修）

御案内

願わくは今春あなたと法聞かん
この弥生の望月のころ　（住職）

春のお彼岸はお墓参りの前にお寺参りに。ご一緒にお聴聞いたしましょう。

日程

3月14日（金）　昼1時半～3時半
※前々住職七回忌法要併修
3月15日（土）　朝10時～12時

ご講師

本願寺布教使
服部法樹 師（呉市）

●参拝セット（念珠・聖典・式章・聴聞カード）
どうぞお持ちください。

如来・人・言葉 139

のぞみはありませんが
ひかりはあります

小池 秀章（こいけ ひであき）
（龍谷大学非常勤講師）

このタイトルを聞いて、どのようなことをイメージするでしょうか。

実は、この言葉は、心理学者・河合隼雄（かわいはやお）さんの逸話に基づくものだそうです。河合さんが新幹線に乗るため、夜遅く駅に行った時、駅員さんから「『のぞみ』はありませんが『ひかり』ならあります」と言われたのです。普通なら、単なる終電近くの駅での一コマに過ぎない出来事です。しかし、河合さんは、自殺をほのめかす切羽詰まった電話を受け、自分が駆けつけたところで何が出来るだろうと思いながら、駅までやって来たところだったので、この言葉が、違う意味として心に響いてきたのです。

河合さんは、『無為の力』の中で、「何もしないことが力を生む」ということを述べ、「何もしないで待つ」というのは大変なことであり、そういう時には、「希望を失わない」ということが大事だと言われています。そして、新幹線の駅員さんの言葉を取り上げ、「それ以来、僕はつらいことがあっても『そうや、望みはなくても光はあるんや』と思うようにしています」と、語っておられます。

本願寺派僧侶・江田智昭さんは、『お寺の掲示板』の中で、「仏教的に解釈すると、私たちが『のぞみ』を失っても、仏さまの『ひかり』は私たちを照らしています、と受け取れます」と書いておられます。

仏さまのひかりは、どんな時も私たちを照らし続け、正しい方向に導こうと、はたらき続けてくださっています。そのことを、忘れないでいたいと思います。

（『まことの保育』２０２４年12月号「今月のことば」より）

ついたち礼拝（月初めはお寺参りから）　―毎月一日・午前9時より45分間―

【法句】(276) 願わくは花の下にて春死なんその如月の望月の頃（西行法師）※如月の望月：２月１５日のこと。涅槃会。

寺内だより

●み仏にいだかれて〔葬儀勤修〕

●ご恩を偲び〔法事勤修〕 1/8～2/21

専徳寺納骨堂受付中

●御正忌報恩講法要報告

総代　伊原哲男

御開山親鸞聖人のご遺徳を偲ぶ報恩講が広島県廿日市市より本願寺布教使米田順昭師をお迎えして開催されました。本年は宗祖の763回忌のご法事にあたり、また立教開宗800年の年にあたるということでした。お聴聞しつつ、そんな宗祖との出遇いや、また家庭におけるご法事などでの人との出会いやご縁を偲ばせていただきました。

法座の中で「往生」というお話が印象に残りました。往生とは「生まれ往く」。わが命は阿弥陀さまのお働きによってお浄土へと生まれ往く命、強く心に残りました。

二日目の夜席は万灯会。ローソクの灯りが本堂に並べられ、厳粛な夜を映し出し、その中で住職の法話がありました。

ご満座の三日目は前住職より領解文を学びました。領解文は「安心（あんじん）・報謝・師徳・たしなみ」の四つの文章になっています。解釈と意味について分かりやすく解説をしていただきました。

今年もお斎にご恩を思い、喜びありがたく美味しく頂きました。ごちそうさまでした。坊守様やお斎衆の皆様、七品の献立を考え提供して下さり有難うございました。又法要をお手伝い下さった皆様、無事に法要を終えることが出来ました。お疲れ様でした。

寒さ厳しい中多くの参詣衆の中、聖人の御遺徳を偲ぶ報恩講でした。南无阿弥陀仏　合掌

【専徳寺HPリニューアル】

https://sentokuji.net/

上のアドレスに変更しました。

随時「ギャラリー」を増やしていきたいと思います。

ご意見ご感想をお待ちしています。